

## 2023年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2024年 4月 4日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 基盤教育センター・准教授  
(氏名) 高木駿

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	ジェンダー平等を推進するフェミニスト・アート：男性による女性支配としての美を脱却する芸術実践					
	合計	使用内訳 (単位：円)				
交付決定額	600,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	598,103	0	39,928	0	12,425	545,750
執行残額	1,897					
共同研究者	所属・職名	氏名		役割分担等		
	京都教育大学・非常勤講師	松本理沙		美術史・美学・芸術学の観点による、フェミニスト・アートの言説研究・作品分析・質的調査		

研究分野：哲学、美学、芸術学、ジェンダー論

キーワード：美学、ジェンダー、フェミニズム、パブリックアート

### 研究成果の概要

本研究は、哲学・美学、芸術学、そしてジェンダー論という多角的観点から、「フェミニスト・アート」（以下FAと略記）とは一体何であるのかを明らかにしようとするものであった。具体的には、言説研究、作品分析、アーティストや評価者を対象にした質的調査を行うことで、ジェンダー平等に資するであろう作品の理解し、その特性や性格、思想を抽出した。調査や分析は概ね順調に推移したものの、一年という短い時間では質的調査からの十分な成果を得ることはできず、論文や発表等の関連する客観的成果をあまり多くは残せなかった。そして、それゆえに、「FAとは何か？」という問いにも、総合的で客観的な応答がいまだにできていない。これらの点は、継続的な課題としたい。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

昨年度の課題「近代美学における美の概念をジェンダーの視点から批判する：認識能力および心有能力によるジェンダー不平等の隠蔽について」が思弁的・理論的な性格の強い研究であったのに対して、本研究の成果は、芸術学や社会学の方法や知見を導入した点で、より学際的で実践的なものになった。それゆえ、他分野との接続や、より広い領域への適用の可能性を持つ。また、ジェンダー不平等という社会的課題に対する芸術実践の研究が、それ自体で不平等の是正をエンカレッジするという社会的な意義を有していることは言うまでもないだろう。

### 1. 研究の背景

例えば、ヌード女性の絵画に代表されるように、近代芸術は、男性中心的な美の実践として、女性の存在を搾取・支配する傾向にあった。男性だけが、美の内容、美の対象、作品の美しさ、芸術の権威を決定できたからである。20世紀に入ってもなお、そうした構造は維持されたが、それに抗う芸術実践が登場した。それがFAである。FAは、フェミニズムの潮流に呼応する形で展開されることもあり、MDG3やSDG5とも連動した作品を残してもいる。しかしながら、女性の活動が多様であるゆえに、女性が制作しただけでFAと称賛されたり、トランス女性を排除するものやジェンダー不平等を助長するものでさえFAと評価されたりと、FAの内実については混乱が生じている。

### 2. 研究の目的

それを踏まえて、本研究は、FAの作品、キュレーターや批評家などの評価者を対象として、言説研究、作品分析、質的調査を行うことで、特にジェンダー平等に資するFA作品群を特定し、それらに共通の特性や思想を抽出することを目的にする。

### 3. 研究の方法

本研究は、次の三つの方法により遂行される。1) 言説研究では、FAをめぐる哲学、芸術学、社会学（フェミニズム理論）の学問的テキストや、キュレーターや批評家によるテキストの分析を通じて、言説としてのFAがどのように理解されていた（いる）のかを明らかにする。これにより、FAのある程度の類型を明らかにする。2) 作品分析では、言説の類型に則して作品を仮説的にピックアップし、分析を加える。作品はFAの爆心地である20世紀以降の欧米のものを主に扱うが、研究代表者のこれまでの調査も踏まえて日本のものも検討する。分析の結果を用いて、作品がどの程度言説に一致しているのかを考察し、言説の類型の修正や破棄、創出を行う。3) 質的調査では、キュレーターや批評家などの評価者を対象に個別のインタビューを行う。これによりFAの評価をめぐる現状と諸問題を把握する。作者ではなく評価者を対象とするのは、評価者を通じて芸術作品に触れるのが一般的

だからである。以上の方法を通じて、FAの中でも特にジェンダー平等に資する作品とその特徴および思想を特定する。また同時に、なぜFAにはジェンダー平等に反する作品や一部の女性（トランス女性）を排除する作品が含まれてしまうのかといった問題も扱いたい。

#### 4. 研究成果

##### 論文

- ・高木駿「家父長制、セクシズム、ミソジニー ——トランスの女性の包摂」, 北九州市立大学基盤教育センター紀要第41号, 93-101頁, 2024年.
- ・松本理沙「権力構造への参与 — ジュディス・バカ《ロサンゼルス of 偉大な壁》における人種とジェンダーのポリティクス」, あいだ哲学会『あいだ／生成』, 1-16頁, 2024年.

##### 口頭発表

- ・高木駿「美と(トランス)ミソジニー ——美の家父長制の乗り越えをめぐる」, 第74回美学学会全国大会, 2023年.
- ・高木駿「ミソジニーとセクシズム ——トランスの女性の排除がもたらすもの」, 親鸞研究会, 2023年.

##### 講演

- ・高木駿「美学とジェンダー」, ポリタスTV アートと学ぶジェンダー #1, 2023年.